

2013年度 早稲田大学 国際教養学部

日本史 解答例

I 古代・中世の東アジア外交 <標準>

問1イ 問2 壺与〔壹与、台与、臺与〕 問3ウ 問4ウ

問5エ 問6イ 問7オ 問8オ 問9エ 問10エ

問4・5・6を難問だと感じているようでは、早大合格は心許ない。早稲田では遣唐使は頻出のテーマであった。もっとも、何がどう出題されるかという情報を持っていないと、最短コースで学習することはできないだろう。

II 前近代の政治と宗教の関係 <標準>

問1ウ 問2ア 問3オ 問4 林下 問5イ

問6エ 問7エ 問8オ 問9イ 問10ア

問2のウは、正確には誤文。山川出版の『日本史小辞典』に「1382年将軍足利義満が、春屋妙葩を開山として、室町幕府の東側に創建を開始した。春屋は開山の名誉を師の故夢窓疎石に譲り、2世となった。」とある通り、夢窓疎石(1275～1351)はすでにあの世の人で、実際に「招かれて」開山となったわけではない。早稲田大学には、作問ミスを指摘しても華麗にスルーされるので、特に申し立てはしない。

III 大正・昭和初期の外交 <やや易>

問1オ 問2エ 問3オ 問4ア 問5ウ 問6ウ

問7ア 問8 三・一独立〔三・一〕 問9エ 問10オ

国際教養学部定番の英文史料問題。問10のみ英文史料を読解しないと解けない問題であった。

IV 大阪万博前後の日本 <難>

問1オ 問2エ 問3イ・エ 問4ア 問5イ

問6イタイイタイ病・四日市ぜんそく

問7イ・オ 問8ウ 問9ア 問10ア・オ

問2・3・5・7が難問。とりわけ問2・3は考えて解かせる問題ではなく、単に細かい知識の有無が問われた問題であった。早稲田はもとより他の大学でも問われたことのない超難問なので、これらの単語にこだわる必要は、まったくない。過去問演習の際には、そうした難問語句の取捨選択に気をつけよう。

講評

大問IVのせいで後味の悪い入試となっただろう。実際の受験生は、気持ちを切り替えて次の入試に挑む必要がある。